

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700652		
法人名	有限会社ふるさと		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	岡山県浅口郡里庄町大字里見9144		
自己評価作成日	平成 26 年 2 月 3 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=3372700652-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 26 年 3 月 13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を基に、入居者の方が何を望んでいるのかどうしたいのか常に考え心に寄り添い、その人らしく生活できるように個別の対応を心掛けています。また、全体的なレベルアップを目指し、研修や勉強会にも積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた場所に立地しており、木の温もりのある開放的な雰囲気の中、利用者も職員もはつらつと元気に過ごしている。訪問した日には家族の面会があり、自然な雰囲気でのんびり過ごされ、みんなとわきあいあいと話をしていた。管理者から家族会の活動が盛んで、非常に協力的と伺い、それを実感した場面だった。食事面ではラーメンを食べに行くなど外食も行っているが、月1回、パンやスイーツのバイキングなどお楽しみを企画し、喜ばれている。管理者をはじめ職員は前向きに業務に取り組んでおり、研修や委員会活動など自己研鑽に努めている。外部研修後には参加できなかった職員にもフィードバックし、全体のスキルアップにつなげている。また、利用者と担当職員が1対1でコミュニケーションを図り、利用者からの「〇〇がしたい」という希望を叶えられるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲示し、朝礼で唱和し、全員が理解共有できるように努めている。	毎日の朝礼で理念を唱和し、共有に努めている。「寄り添う心」「日々感動」「新たな気持ちで前向きに」、この3本柱が無ければ仕事は出来ないという考えのもと、支援を行っている。事業所を1つの家族のように考え、日々過ごす中で、些細な変化にも気付けるよう、寄り添った支援を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会活動(地域のまつり、清掃等)に積極的に参加するとともに、グループホームの行事にも、地域の方へ声掛けをしている。グループホームでおまつりの一環としてフリーマーケットを開催するなど、地域の方に来ていただきやすい工夫をしている。地元の舞踊の先生に毎月1回訪問していただき、入居者・職員ともに踊りを教えて頂いている。	4月には恒例となった「ふるさと祭り」を開催し、事業所と地域との交流に繋がっている。屋台やフリーマーケットなど地域の方が大勢参加してくれている。地区の秋祭りにはお神輿が立ち寄ってくれ、利用者が出迎えている。町内会には入会していないが、回覧板などで情報を得て、清掃活動等に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個人情報も踏まえて、ご家族の了承のもと、推進会議等で地域の方に認知症の方の理解や支援の方法を話す機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営状況等を報告し、助言を頂いたものについてはユニット会議、リーダー会議で話し合い、サービスの向上に繋げている。今年度は、推進会議出席者に避難訓練にも参加(見学)して頂き、助言を頂くこともできた。	2ヶ月に1回、民生委員・健康福祉課・地域包括支援センター・家族会役員3名・専務等の参加で開催している。内容は事業報告、家族会からは行事の希望や提案などが出ている。健康福祉課職員からは、踊りの先生を紹介頂き、月1回の訪問を利用者も楽しみにしている。	運営推進会議の内容について課題を感じていると伺いました。介護や認知症、時事の事柄などの勉強会や事業所で利用者と一緒に何か行うことで現状を知って頂くなど、その後のテーマとして繋がるような内容を考えてはいかがでしょうか。1回だけでなく、継続することでお互いが成長するような発想を期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題点、相談等について、その都度里庄町に助言、指導を頂き現場に反映させている。	行政の担当者と話をする機会は多く、制度上の質問や疑問などがあればその都度尋ねている。また、入居希望等の情報をもらうこともある。生活保護を受給している利用者があり、社会福祉事務所の担当者の訪問もあり、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を随時開催し、勉強会を通じて正しい理解に努めている。身体拘束0を維持できるよう、その都度代替策を職員全員で検討している。原則玄関を含め鍵を掛けない事を基本としている。	身体拘束ゼロを目指した介護の実践に取り組んでいる。身体拘束委員会を中心に、身体拘束をしなくてもよい支援方法や言葉による拘束について勉強会を行い、理解を促している。日中は玄関の施錠はせず、センサーを用いて利用者の安全を確保している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で虐待についての情報も収集し正しい知識を習得するとともに、職員にも見て見ぬふりをしないよう指導し、僅かな変化にも気付けるよう声を掛け合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加等により、研修報告書等を通じて理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご本人、ご家族に契約内容、重要事項について説明し、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、電話、メール、面会時にもご家族からの要望や、ご意見を聞くようにしている。要望等があった場合は、ユニット会議、リーダー会議で報告、改善策を話し合っている。	家族の面会が多く、その際に意見や要望を聞いている。メールでの連絡を希望する家族もあり、対応している。また、家族会がしっかり形成されており、運営推進会議においても意見や提案がある。行事への協力も大きい。玄関に意見箱を設置しているが、利用はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニット会議、各委員会の開催及び年2回の個人面談等を通じて要望を聞く機会を設け、また職員用の意見箱も設置しており、提案事項はリーダー会議で検討し、運営に反映している。	職員が自由に意見を伝えられるように意見箱を設置し、提案があれば会議で検討している。職員が記載した自主評価を基に、専務、管理者との3者での面談を年2回実施し、意見や要望など直接聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や目標達成状況、業務水準等を年2回評価し、面談により指導するとともに、昇給、昇格等に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加し、受講内容は、報告書を通じて現場に反映するようにしている。また、月1回職員が講師役となり勉強会を開き、教わるだけでなく教える立場を経験し、資料作りなどを経て様々な事について再確認・再認識できるような機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム職員の為の研修会に積極的に参加している。また、近隣の特別養護老人ホームに定期的に訪問させてもらう事により、介護に対する取り組みや、重度要介護者に対するケアの方法などを勉強させて頂いている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご本人の要望等を把握し、ご本人が要望、不安等を訴えやすいように担当者を決め、職員と一緒に解決する事を基本としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対しては、相談等について話し合いながら、共に考え、できる限りの助言や支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリングを通じて、本人様、ご家族の要望等を把握し、介護支援専門員を中心にケア担当者とともに話し合い、必要な支援、助言等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様との会話の時間をできるだけ設け、日常生活の中で、できる事を見出し、一緒に行うよう努めている。また、行事の際や食事作り等においても、昔の経験から得られた知恵を拝借し、教わることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回入居者様の生活の様子等を写真と手紙でお知らせし、面会時には生活の様子を報告し、ご家族との話し合いを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔ながらの季節行事をレクリエーションに取り入れ、季節感を味わっていただいたり、昔話を聞いたり、懐かしい出来事を思い出して頂けるような声掛けを心掛けている。できる範囲で馴染みの場所への外出も行っている。	家族との繋がりが深く、外出や外泊、お墓参りなど家族と一緒に掛ける方もおられる。カレンダー作りを一緒にしている家族もいる。また、週1回、友人が居室へお花を生けに来てくれる方もおられる。端午の節句など懐かしい行事や季節を感じる事が出来る行事食等も実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が楽しく過ごせるようにテーブルの位置や配席等に配慮し、なるべくフロアーにて過ごして頂けるような声掛けを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居者様には、退居後もお見舞い等に伺っており、その他についてはこちらから連絡するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にアセスメントを行い、本人様の希望などを聞いている。言葉でのコミュニケーションが困難な場合には、日頃の観察や担当者との話し合いで検討し、介護計画に反映させている。	担当職員を中心に利用者としっかりコミュニケーションを図り、本人の希望や思いを聞きとっている。利用者から、「外食したい」「実家に行きたい」という希望があり、実現に向けて職員で検討し、支援した例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはカンファレンスなどを行い、ユニット全体で情報の共有化に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット介護、アセスメント、評価に基づき情報の共有化により介護計画において、課題を明確にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、評価し、ケアカンファレンス等においてご家族の希望、本人様の希望を把握し、検討の上介護計画を作成している。	モニタリング、アセスメントは担当職員が実施している。その後、カンファレンスを行い、家族や主治医、職員の意見を反映し、プラン作成している。利用者の身体的状況を考慮して、生活リハビリをプランに取り入れていくこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画にその日の様子を記入し、気付きノート・情報交換ノートの活用、朝礼(申し送り)での発表等により、職員間で情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて介護計画の見直しを行い、その時にあった介護計画を作成するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて関係各方面からの協力を頂きながら行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前よりかかれていた主治医のもとに引き続き通院していただいている。それぞれの医療機関との連携を密にし、必要に応じて往診に来て頂いている。主に担当者が受診対応し、対応できない場合はご家族の協力を仰いでいる。	利用者や家族の希望を優先し、入所前のかかりつけ医を継続している。受診は担当職員が支援しているが、家族が行う場合もある。それぞれの医師と日頃から連携を図っている。緊急時は家族や主治医と相談し、救急車を呼ぶなど適切に対応している。現在、看護師は不在だが、5月より復帰の予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の気づきや情報を、受診時に医師に相談している。医療機関との調整、処方薬の管理等は担当者が把握し、専用ボードに書き出し職員全員が情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連絡調整は密に行い、状態の把握に努め、早期退院の話し合いも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針に基づき説明し、同意を頂いている。終末期と診断された場合は、ご家族と今後のケアについて話し合いを行い、ユニット全体で取り組んでいる。また、年に一度、「終末期をどこで(病院・施設・ふるさと)迎えたいと考えているか」等のアンケートをご家族にお願いしている。	本人や家族の希望を優先し、主治医、家族の協力を得ながら、可能な限り対応していく方針である。今までに看取り支援の経験もある。家族に『看取り希望』についてのアンケートを実施した結果、事業所希望と、病院希望が半々だったとのこと。家族の希望を随時間きながら相談をしている。内部、外部研修の機会を持ち、職員のスキルアップを図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルにおいて賞状のチェック、医師への連絡指示を定めている。全職員に消防署における救急救命講習を受講させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導を仰ぎながら避難訓練を実施している。地域へは推進会議を通じて協力を依頼している。スプリンクラー、自動火災通報装置も設置済み。	避難訓練は年2回実施、2回とも夜間想定としている。避難訓練の後、職員は水消火器での消火訓練を実施した。消防署協力の下、救急救命法も職員全員が講習を受けている。災害についてはまだ訓練を実施できていない。	災害時の訓練などがまだ実施されていないとのことでした。今後、地域の方も共に訓練に参加頂き、早急な取り組みをお願いします。また、災害時の準備として備蓄食糧や水、物品など必要な物を再検討し、用意して頂くことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊敬」を基本とし、その方に合わせた声掛けを行っている。個別対応を心掛け援助している。また接遇やプライバシーに関する研修も実施している。	利用者と接する時は、尊厳を持って接することを大切にしている。敬語か方言かという悩みもあるが、現場のリーダーを中心に馴れ合いにならないよう、注意している。接遇の外部研修を受けた職員が、内部研修の場で報告し、職員全体のスキルアップを図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を最大限尊重し、一人一人の生活リズムを大切にしながら、本人の思いに沿ったケアを支援できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思決定を最大限尊重し、自己のペースで暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じて、月1回専門職に来てもらい散髪を行っている。朝の洗面や入浴後の整容等本人の意向を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできる事を見出し、好みの献立を取り入れる等しながら、食事のたのしみが増えるようにしている。	下膳や後片付け、テーブル拭きなど利用者にもできることは手伝ってもらっている。調理は担当職員が行っている。月1回パンバイキングやスイーツバイキングなど企画し、利用者が食事を楽しむことが出来るように工夫して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を提供し、必要に応じて水分チェック表を作成し一人一人の栄養や水分が確保できるように支援している。食事の摂取量の記録、体重測定も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、介助しながら口腔内を観察している。義歯は毎日洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを考えながら、本人の意思を取り入れた声掛けをし、トイレ誘導を行っている。その方にあった排泄の状態をユニット会議で話し合い、本人様にとって良い排泄パターンの把握に努めている。	排泄チェック表を利用し、出来るだけトイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレを使う利用者や、安眠を妨げないためにもオシメを使用している利用者もいるが、コスト面も考慮し、金銭的な負担軽減にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の記入とともに、便秘につながらないように、個々に合わせた排泄パターンの把握により、毎日同じ時間帯に排泄の声掛けを行っている。野菜中心の献立等工夫を行うとともに、その方にあった水分補給をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴をして頂けるようにしているが、勤務体制の都合で、本人様の希望通りの入浴が出来ないこともある。	基本的に週2回、午後から入浴を実施している。今のところ夜間入浴希望の方はいない。入浴回数や希望時間への対応は、職員配置の面から困難な場合が多くなっている。利用者に入浴を楽しんでもらうように、入浴剤等を活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝日を浴びて日光浴したり、簡単な運動をしたり、天気の良い日には、近隣を散歩できるような支援を心掛けている。生活リズムを整え、夜間安眠につながるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに綴じこみ、薬に関する情報を共有し、主治医の指示のもと服薬管理を行っている。薬の内容が変更になった場合は、気付きノート等使い、情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のできる事を把握し、好きなことや希望を取り入れたレクリエーションをしている。嗜好については、禁酒禁煙としているが、その他コーヒー等については、希望者には提供している。気分転換に個別に外出することもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事に外出を増やすよう心掛けている。また天気のいい日には、散歩や買い物に出かけるようにしている。ご家族に協力していただきながら、自宅への外出なども支援している。	外出の支援を積極的に行っている。お花見や紅葉狩りなど、季節の外出だけでなく、ラーメンやファミリーレストランへの外食、買い物など日常に出かけている。身体機能の低下により外出が難しくなった利用者にも楽しんでもらえるように工夫しながら取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様は金銭管理が困難なため、買い物へ行っただけなどは支払の立て替えを基本としている。本人様の希望が強い場合は最小限の金銭を所持して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、手紙や電話を使用される時は、プライバシーに配慮しながら職員が支援している。お手紙を書く方には、はがきや切手の購入を立て替えで行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、フロアーには、季節ごとの花を飾ったり、小物を置いたりしている。温度調節も配慮している。壁の飾りつけも季節感のあるものを取り入れている。	利用者が思い思いの場所でくつろぐことが出来るよう、ソファ等所々に配置している。季節の生花を飾ったり、お雛様を飾ったりと、季節感も感じられる。また、利用者が描いた絵が随所に飾られており、リビングが華やかになっている。温度、湿度の管理も加湿器等を用い、気を配っている。	利用者がすばらしい絵を描かれています。事業所だけで鑑賞するのではなく、公民館など、外部に展示する機会を検討してみたいでしょうか。事業所を知ってもらい良い機会にもなるのではないかと考えます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	横になって休みたいときは居室で寛がれ、フロアは居間兼食堂となっており、自由に過ごせるように音楽やテレビを流している。窓際のソファでゆっくりと外を眺めて過ごされることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンスは備え付けとなっているが、本人様使いやすいように配慮し、カレンダー、写真などを飾り、希望により自宅より馴染みものを持ってきて頂くなどして、居心地のいい居室づくりを心掛けている。	家族の写真を壁に貼ったり、利用者の好きなものを飾ったりしてそれぞれの空間を造っている。清掃も利用者が出来る場合は本人にお願いしたり、担当の職員と一緒にしたりしている。自宅で使い慣れた物は何でも持ち込み可能だが、食べ物の管理が難しい為、冷蔵庫だけは遠慮して頂いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりをつけ、扉には手作りの表札を付けたりして、分かりやすいようにしている。洗面も適切な高さとなっており、自立した生活の工夫をしている。内部はバリアフリーで車イスも自走できるようになっている。		